社会的な地位向上を目指す

全国コンクリート圧送事業団体連合会

佐藤（さとう） 隆彦（たかひこ）氏

長谷川員典前会長の急逝に伴い、急きょ会長に就いた。この10年間、理事や副会長を務め、前会長の下で協会活動を支えてきた。「これまでの〝流れ〟を止めることなく、各施策に取り組んでいきたい」と決意を語る。圧送業の社会的な地位向上に努め、若年者の入職促進につなげていく。

◇

――就任の抱負は。

「長谷川前会長はリーダーシップを発揮されながら、さまざまな新施策に取り組んでこられた。その流れを引き継いでいく。幸い、活動内容はある程度理解しているので、微力だが会員企業に役立つ活動をしていきたい」

――市場環境はどうか。

「この10年は全国的にも需要が増加した。ただ、直近の状況を見ると、会員企業の売上高平均は２０１９年度に比べ20年度は３０００万円程度減少し、圧送量も年平均で１万立方㍍強ほど減った。新規現場数の減少が予想される」

――人手不足はどうか。

「事業量は減っているが、人手不足感はある。若年者の入職が減り、それを外国人技能実習生で補っているのが現状だ。コロナ禍で入国者が減り、今後外国との往来が再開されれば帰国者だけが増え、人手不足が加速される。特に都市部の工事は現場の週休２日が増え、その分平日の稼働が増えた。繁閑の波が大きく、その対応が喫緊の課題だ」

――建設キャリアアップシステム（ＣＣＵＳ）の対応は。

「直近の会員調査では事業者登録が72％、技能者登録が62％で、専門工事業の中でも優等生と自負している。圧送業は大半が１次業者で重層構造になっていないため、加入率が高い。標準単価は地域によって作業時の編成人数が異なるため、実情を踏まえた検討を進める。技能者の単価アップにつなげていきたい」

――働き方改革の現状は。

「罰則付き時間外労働規制の適用まで２年半を切ったが対応しきれていない。特にポンプ車の回送時間が大きな課題だ。首都圏で午前８時にポンプ車を現場に配置するには午前６時には稼働させないといけない。この回送時間をどうするのか。労働時間の実態を調査中で同じ悩みを抱えるクレーン業界と足並みをそろえ対応策を検討したい」

――今後の重点施策は。

「圧送業の社会的な地位を向上させたい。先輩方のおかげで業界内では認知度は上がったが、一般の方にはほとんど知られていない。若い人たちの意見も聞きながらブランディングを検討し、若年者の入職につなげたい。コンクリートが二酸化炭素（CO_2）を多く排出するという指摘がある。カーボンニュートラルの対応は避けて通れない。ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に合致した経営の在り方を当業界も検討したい」。

（９月10日就任）

新会長

１９８７年東北大学経済学部卒、清水建設入社。95年ヤマコン入社、99年常務、２００３年専務、05年社長。団体活動では12年全圧連常務理事兼経営委員長。15年副会長。山形県出身、57歳。趣味はゴルフ。好きな言葉は鶏口牛後。「圧送業はニッチな業界だがなくてはならない業界で、この言葉にもつながる」という。